

令和4年12月21日

## 正和会視察報告

報告者 清水義朋

- 【日時】 令和4年12月21日（水）13時～
- 【場所】 旧ヤマジュウ田村家住宅（国登録有形文化財（建造物））
- 【参加者】 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、清水義朋、  
幡垣正生、武藤政義、串田金八（議席番号順）
- 【目的】 市内に現存する国の登録有形文化財である旧ヤマジュウ田村家住宅の現状を視察するとともに、今後のさらなる活用について調査する。
- 【概要】 明治35年に建造された田村邸は、酒造業を営む田村家の分家として起こったとされ、三代に渡り現在の場所にて生活をしていました。ヤマジュウというのは屋号であり今の紋が屋根の瓦や蔵などに見ることができます。平成24年に所有者が泣くなられた後、文化的価値が認められ、福生市が取得、保存することとなりました。一般公開に向けての整備を行い、現在、一般公開されています。



外観：主屋



外観：庭から客間を望む



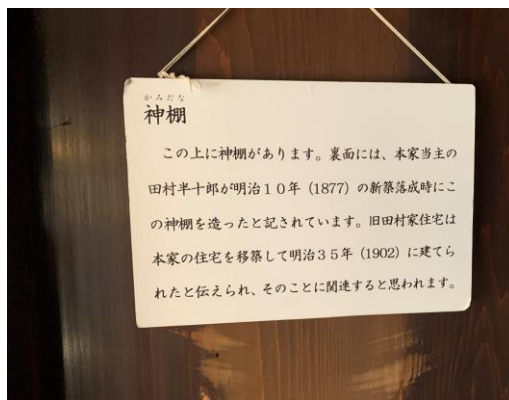
所管する福生市教育委員会生涯学習推進課からの説明を受ける。間取りの説明や登録有形文化財となった経緯、所有者であった田村家の概要などに加え、南側に接する宿橋通りの以前の様子、建物裏側に現存する2つの蔵の概要など、多岐にわたり説明いただいた。



国の登録有形文化財のプレート



邸宅内に残る神棚とその説明。  
田村家に残る日記も見つかり、その中には明治10年に新築落成時にこの神棚が贈られたとあるとのこと。神棚の裏に記されたものと一致することから、現在の田村家住宅が本家からの移築前に送られたものと考えられます。





客間の欄間や釘隠しなども当時のまま残る

【所感】 福生市内には登録有形文化財が3か所あるが、今回そのうちの一つの視察を行った。現在の活用については小学校の社会科教育などに使われているが、市内、市外からの来場を広く受けられるような形にはなっていない。古民家であるがために、その保存という観点と広く公開するという相反する点を、どこで一致させるかということは簡単なことではないが、考えていかなければならない。

さらに、田村家住宅単体での活用ということではなく、先にも述べた和の雰囲気が残る中で3か所の登録有形文化財があるわけで、これらを結び、また周辺には田村酒造場、玉川上水などもあるので、これらの環境も活かしながら、更なる活用について考えていかななくてはならないだろう。

いずれにしても、当時の様子をうかがえる貴重な建物が残ることは有益なことであるとともに、以前の福生では養蚕の盛んな土地でもあったことから、蔵もまだ現存しており、その用途も多様であったとの調査も残る。見過ごされがちでもあり、また個人の所有ということで公開ということにはハードルも高いことは想像に難くないが、所有の形態が変わるなどして取り壊されていくことに歯止めをかけることもあわせて考えていかなければならないと感じた。

以上